

下仁田町街なか活性化事業基本計画

# SHIMONITA

街なかの姿

2023  
04



みんなでつくる

下仁田町  
[www.town.shimonita.lg.jp](http://www.town.shimonita.lg.jp)

# 町民、町に関わるみなさんの想いを形にする

本計画では、人口減少や少子高齢化が進行する状況下においても、持続可能なまちづくりを実施するため、町民や町に通う高校生、関係者などの生の声を積みあげ、“街なかが目指すべき姿”とそれを“実現するために必要な取組み”をまとめていきます。

みんなの想いを踏まえ、“街なかに暮らす人、来る人、関わる人、みんなが“ワクワク”する気持ちを持って過ごせる空間を創出する”ことを目指し、3つの輪「つどい・つながる・つくりだす」を軸に据え、各種取組みをみなさんとともに進めていきます。

具体的には、街なかに2つの“つどいの場”（下仁田駅周辺、こんにゃく体験道場周辺）を設け、そこを軸に“つながる場”として居住空間の整備、地域人材の育成を進め、新たなビジネスやシビック・

プライド（※）の醸成など、地域が活性化するための動きを“つくりだす場”的創出に取り組みます。



## ※シビック・プライド

まちへの「誇り」「愛着」「共感」をもち、「まちのために自ら関わっていこうとする気持ち」のことを指します。シビックプライドが向上することで、ボランティア活動、自治会活動、住民同士のコミュニケーションなどが活発になり、地域コミュニティが活性化され、住民の「住み続けたい」という気持ちが膨らむと言われています。

# 事業背景

近年の人口減少や少子高齢化の影響、新型コロナウイルスの感染拡大などにより、私たちを取り巻く環境が大きく変化してきています。こうした状況下においても持続可能なまちづくりを進めるため、町では地域の特性や課題を踏まえ、令和4年度から各種活性化策の検討を開始しました。

## ■計画の対象範囲（下仁田駅から徒歩5分圏内を想定）



下仁田駅



中央通り

## 今後の展開

町の中心地域を活性化させることで、町の商業振興及び地域活性化へ繋げ、ひいては全域住民へ経済的又は社会福祉的な波及を図るための取り組みを進めていきます。

# 町の現状

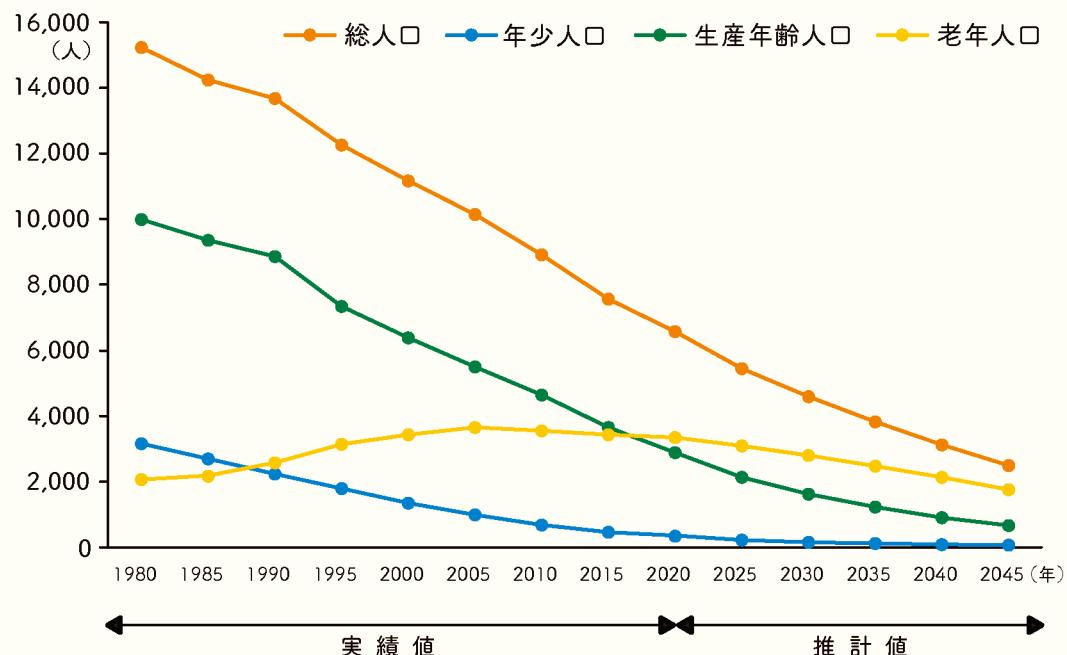
人口減少・少子高齢化の進行、遊休不動産の増加に対する取組みが町の重要課題になっています。

## 統計情報

人 口 6,512人  
面 積 188.38km<sup>2</sup>  
世帯数 3,189世帯

高齢化率 51.87%（令和4年4月1日時点）  
合計特殊出生率 0.76（令和3年時点）  
(人口・面積・世帯数は令和5年3月1日時点)

## ■人口推計と将来推計（下仁田町の年齢3区分別推移）



### 人口減少

40年間で8,000人超の減少▶毎年約200名減少

### 少子高齢化

町民の2人に1人が高齢者

### 遊休不動産の増加

空き家、空き店舗、遊休地の増加

【出典】 総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」(令和2年時点)

# 町民アンケート調査

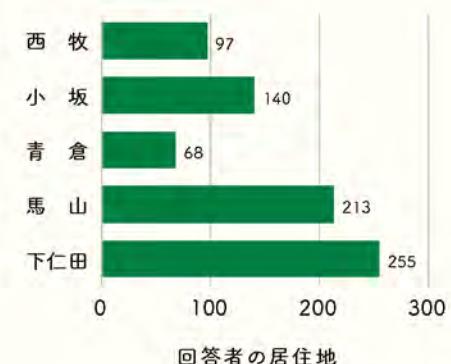
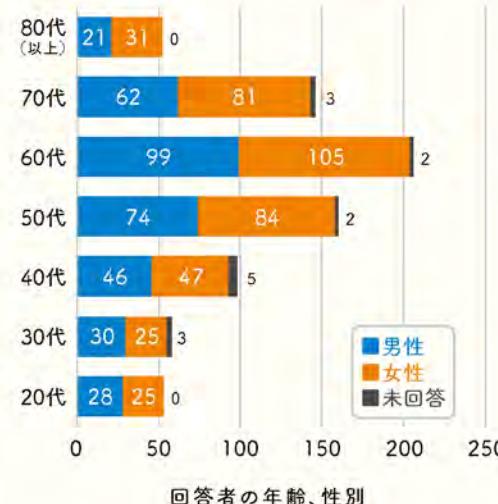
街なかの現状を分析するため、町内在住で20歳以上の方の中から無作為に抽出した2,000名を対象にアンケート調査を実施しました。

## ■主な質問内容

- 訪問目的、訪問頻度、滞在時間
- 街なかの印象、課題、問題点
- 活性化に必要な機能、施設
- 事業に対する意見、要望など

アンケート調査用紙

## ■回答数:773名



## ■回答者の属性

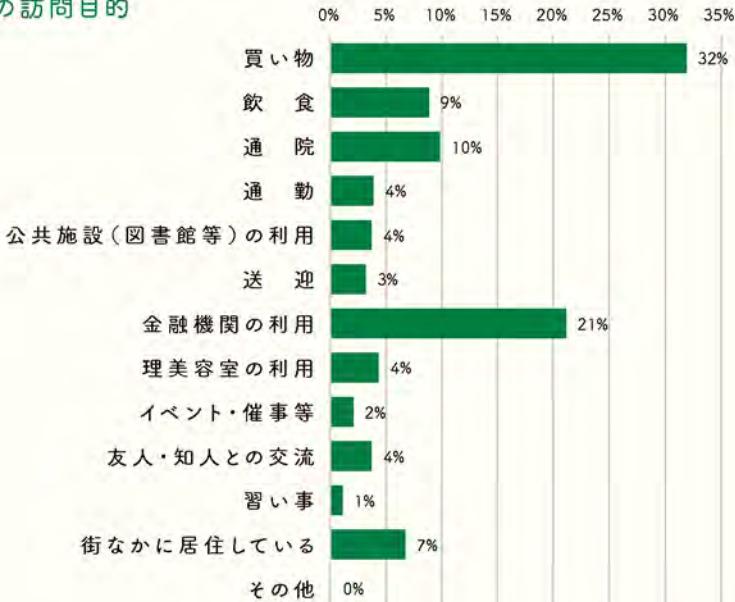
- アンケート調査票送付者のうち、60代以上は約半数の方から回答がありました。一方、20~50代の回答率は27~36%でした。
- 回答者の男女比は各年代ともほぼ1対1でした。

# 町民アンケート調査(1)

## ■街なかの利用状況

- 約半数の方が週に数回以上街なかに訪れています。
- 訪問目的は、買い物、金融機関、通院、飲食の順になっています。
- 一方で、半数以上の方の街なかの平均的な滞在時間は1時間未満となっています。

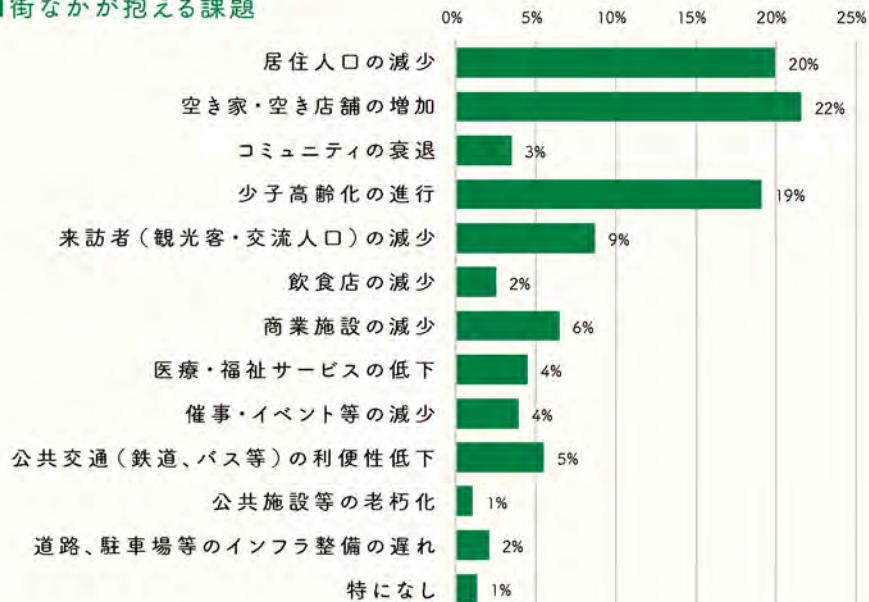
### ■街なかへの訪問目的



## ■現状の課題、問題点

- 世代や性別問わず、空き家・空き店舗の増加、居住人口の減少、少子高齢化の進行を課題にあげる方が多くいました。
- また、幅広い世代から公共交通の利便性、医療・福祉サービスの低下も課題に挙げられ、特に女性からの回答が多くありました。

### ■街なかが抱える課題

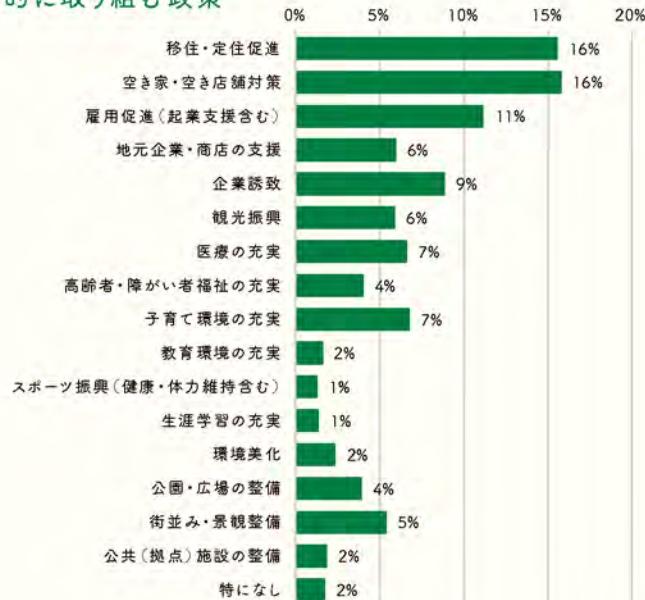


# 町民アンケート調査（2）

## ■今後、重点的に取り組むべき政策

- 空き家・空き店舗対策、移住・定住促進、雇用促進に対する要望が多くありました。
- 高齢者からは医療や福祉の充実、若い世代からは子育て環境の充実、街並み・景観整備に対する意見が多く出るなど、世代や性別で違いがありました。

## ■今後、重点的に取り組む政策



## ■必要な機能、事業に対する要望ほか

子どもから高齢者までが利用できる公園・多目的広場、休憩・憩いの場を求める声が非常に多く寄せられました。【住民視点】では、商業施設(スーパー等)、文化・教育施設(図書館等)、【観光視点】では、観光案内施設や案内板(サインや標記方法)に関する意見が多く寄せられました。

## ■必要な機能、事業に対する要望



## 【5人以下の意見】

- ・コインランドリー、ガソリンスタンド
- ・若者が集う場所、店
- ・散策路
- ・商品開発、PR
- ・観光施設整備
- ・トイレ施設
- ・子育て支援
- ・案内看板、サイン整備
- ・撮影誘致、聖地巡礼
- ・駅改修、駅周辺整備
- ・キャッシュレス等、無料Wi-Fi
- ・魅力の掘り起こし
- ・ハード対策以外(ソフト対策)
- ・関心がない
- ・疑問や不満など

# 現在の街なかの状況

町民アンケート調査及びアンケート調査を補足するために実施した町民（町内在住者、移住者、ねぎとこんにゃく下仁田奨学金奨学生など）との意見交換会でいただいたご意見を踏まえると、現在の街なかは、以下のように整理することができます。

## ● 良いと感じる点

- コンパクトにまとまったまち
- 徒歩圏内にスーパー、病院、薬局、駅があり、生活するのに便利
- 行列のできる飲食店が多い
- 昭和レトロの雰囲気を持った建物が残っている（下仁田駅ほか）
- 昔からのお祭りが残っている

## ▲ 課題に感じる点

- 空き家・空き店舗が増加している
- 居住できるところが少ない
- 高齢化が進んでいる
- 地域コミュニティの維持が大変
- 土日と平日で人通りが大きく異なる
- 就業場所が少ない
- 子ども達が遊ぶ公園が近くにない

## ■ キーワード

居住  
子育て  
環境

公園  
多目的  
広場

憩いの場

食文化

景観  
整備

空き家  
空き店舗

# 街なかの目指すべき姿

このまちに何を描くのか？

今後、街なかの  
目指すべき姿とは？



町民アンケート調査に加え、以下の取組みを通して、今後の街なかの目指すべき姿をまとめました。

1. 検討委員会、分科会

2. 高校生ワークショップ

3. 住民ヒアリング

# 取組内容1：検討委員会、分科会の開催

様々な立場の方の幅広い意見やアイデアを計画に取り込むため、地域住民や有識者などで構成する「検討委員会」とその下部組織に「分科会」を設置して議論を重ねてきました（各会3回開催）。

## ■ 検討委員会、分科会の構成メンバー

検討委員会

分科会

## ■ 検討の進め方（検討委員会、分科会の位置づけ）

- ① 計画に関する内容について、検討委員会で議論・意見聴取 ←
- ② 検討委員会で出た意見・課題（町からの議題を含む）について、分科会で検討
- ③ 分科会での検討内容・成果を検討委員会で報告・提案 ※①～③繰り返し →



検討委員会の様子



分科会の様子



# 検討委員会で出た主な意見、提案

## 第1回委員会

- アンケート調査で自由回答が多いことに驚いた。それだけ町に対する想いが強いということ。  
まちを上手く活用して、活性化して欲しいという町民の想いを感じた。
- 子育て支援を求める声があるが、移住ってきて支援が手厚いと感じた。もっとアピールが必要。
- 街なかに人を呼び込むには大変な努力が必要。
- 提示されたキーワードの中から何か1つでも具現化してやってもらいたい。など

## 第2回委員会

- 現時点では、まだ取組内容が抽象的。町の「地域資源」を活用した取組みが重要になる。  
取組内容を絞り込み、実現できるように進めて欲しい。
- 活性化のためには、町民目線だけでなく、観光を切り口に外からの流入人口も増やさないとダメ。
- これまでの活動の中で、町民の意識改革が重要。まずは町民がまちに対して誇りを持つこと、  
他人がやれば良いではなく、自分がやるんだという気持ちを持たすことが重要。
- 町民に計画の内容を分かってもらうためにも、噛み碎いた言葉で計画を作成した方がよい。
- 今回、分科会の若手メンバーが考えてくれたことはとても嬉しい。  
これを全て自分事と捉え、役割を決めて、みんなでやっていきたい。など

# 町の地域資源

他地域に誇れる町の資源を活用して、各種活性化策を検討していきます。



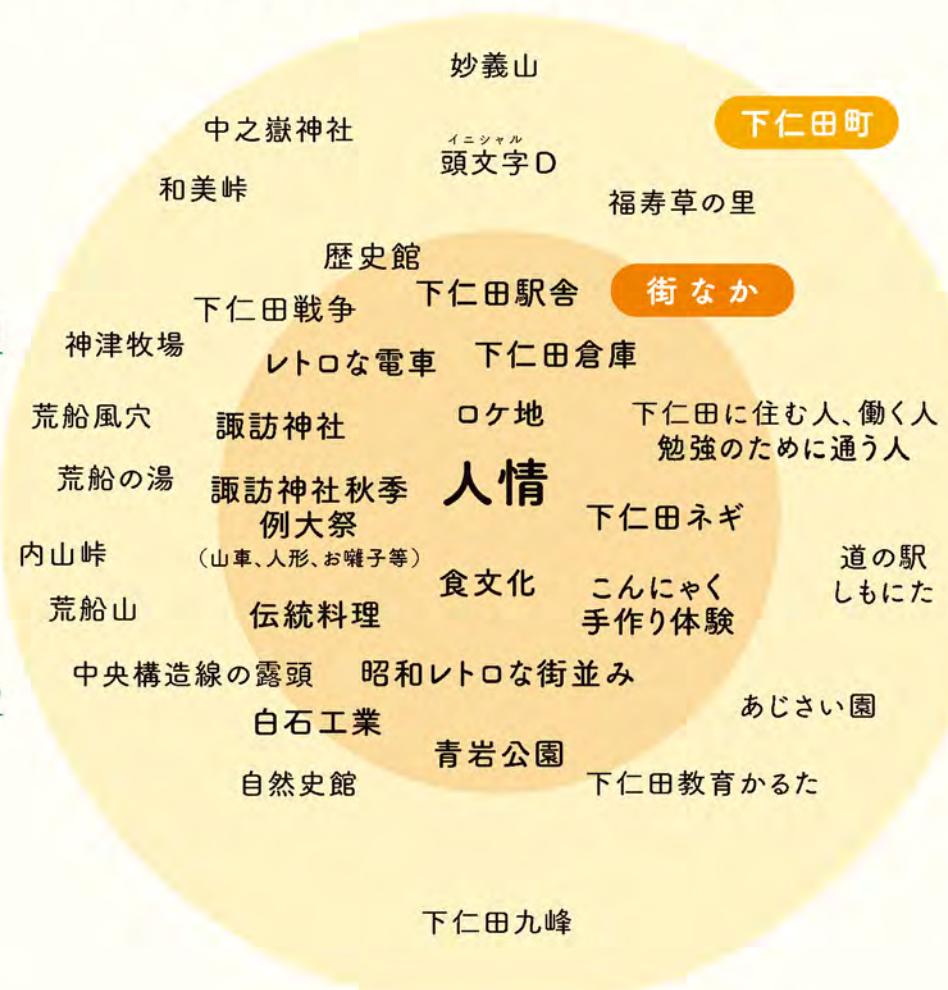
下仁田倉庫



食文化  
(すき焼き、かつ丼など)



上信電鉄  
(下仁田駅)



※検討委員会で出てきた意見を踏まえて作成



諏訪神社  
秋季例大祭



下仁田ネギ



こんにゃく  
手作り体験

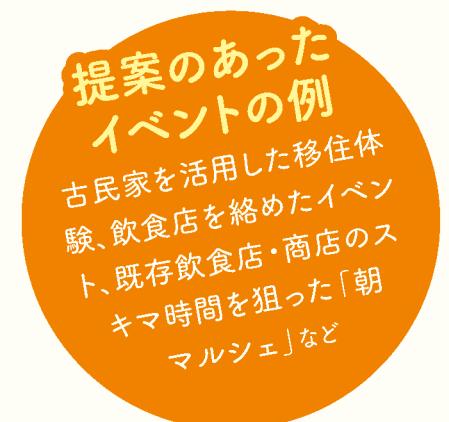
# 分科会で出た主な意見、提案

## 第1回分科会

- 居住・子育て環境を良くするには、若い人（特に20～30代）に対するブランディングを行い、まずは下仁田暮らし・移住の興味を高め、街なかの居住者を増やすことが重要。
- 公園・多目的広場や憩いの場があると、①人と人の交流が生まれるほか、②人が外出する理由にもなり、③人が集まることで新たなビジネスも生まれる可能性がある。
- 空き家・空き店舗を利活用するためには、そのメリットを打ち出すほか、出店者がチャレンジしやすい環境の整備が必要。など

## 第2回分科会

- 街なかに人を呼び込む仕掛けの1つとして、既に街なかにある『衣・食・住』のコンテンツを活用したイベントの提案があった。
- 街なかに人が集まることによって、新たなビジネスが生まれる可能性がある。  
新規店舗を地域に集約させることが重要。
- そのためにも、①利用可能な空き家・空き店舗の把握、  
②出店者と物件の持ち主とのマッチングが重要。など

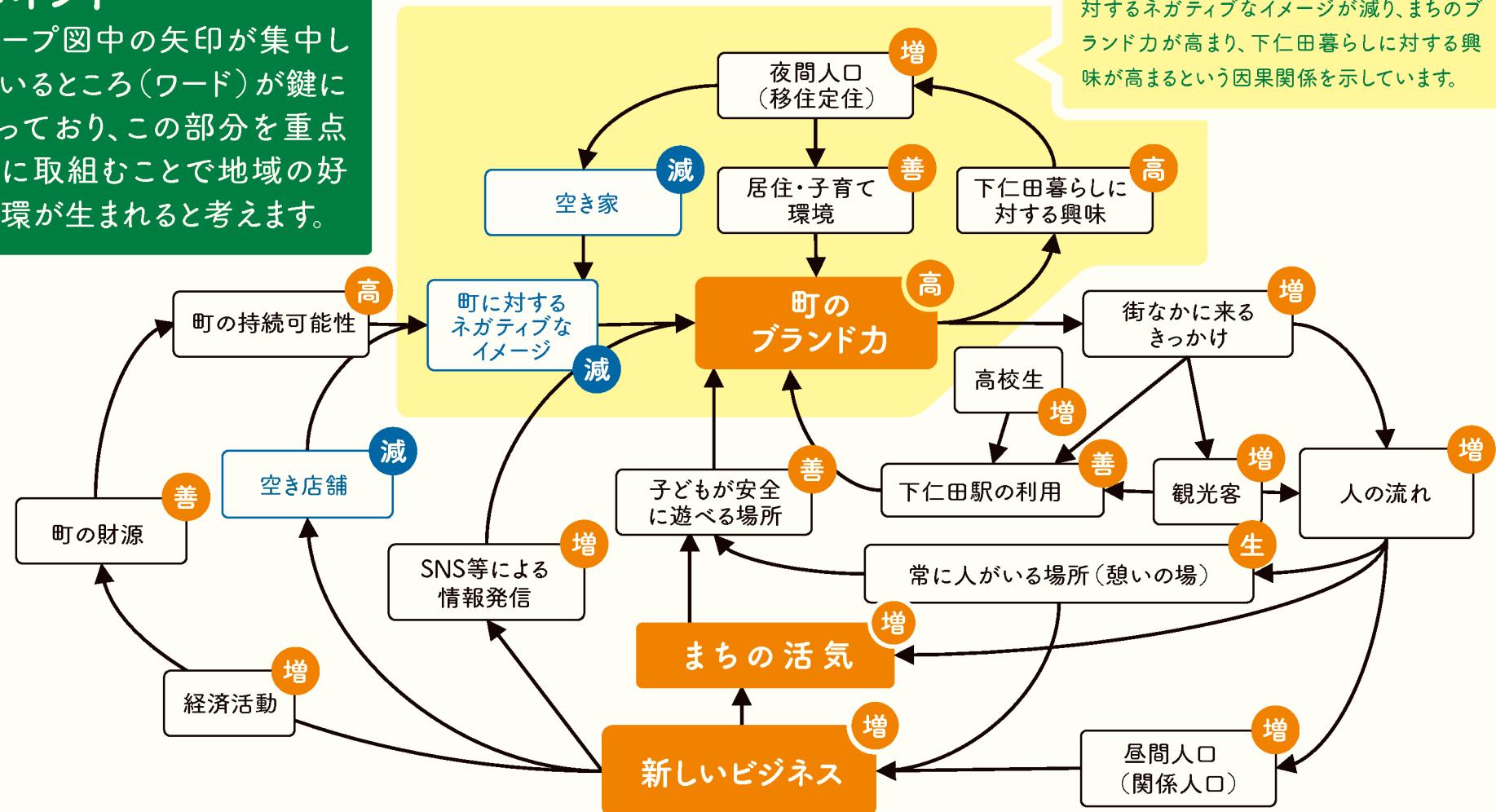


# 地域課題構造（ループ図）

分科会において、地域課題を踏まえ因果関係を体系的に整理しました。

## ポイント

ループ図中の矢印が集中しているところ（ワード）が鍵になっており、この部分を重点的に取組むことで地域の好循環が生まれると考えます。



## ループ図の見方

(一例：黄色枠部分の見方)

夜間人口が増えれば空き家は減少し、まちに対するネガティブなイメージが減り、まちのブランド力が高まり、下仁田暮らしに対する興味が高まるという因果関係を示しています。

# 取組内容2：高校生ワークショップの開催

高校生の視点から「普段の生活の中で、下仁田町にどんな場所があったらよいか？」をテーマに高校生とワークショップ形式でアイデア出しを行いました。

日 時：令和5年1月23日 9:50～12:25

参加者：下仁田高校3年生

ビジネスコース専攻の12名



高校生ワークショップの様子

## ■ワークショップの進め方

### ●インプット

- ・下仁田町の今を知ろう（町の現状など）
- ・他の地域のまちづくりを知ろう

### ●グループワーク

- ・アイデアを出し合おう

『普段の生活の中で、町にどんな場所があったら良いか？』

- ・アイデアをまとめてプランを考えよう

## ■高校生からの提案、意見

●駅周辺にみんな（老人から子供まで）が交流できる  
場所、自習室や個人の趣味が楽しめる空間が欲しい。

●もともと下仁田町が有している雰囲気や良さを活かす  
ため、既存施設を有効活用する方が良い（コストも抑制）。

●ただ「空間」があれば良いのではなく、雰囲気・居心地  
の良さが重要（行政施設のような堅苦しい雰囲気はNG）。

# 取組内容3：住民ヒアリング（個別訪問）の実施

街なかに住んでいる方、街なかで働いている方を対象に個別訪問を行い、現状の街なかの課題や今後目指すべき姿などについて、お話を伺いました。

実施時期：令和5年1月下旬～2月中旬延べ9日間

ヒアリング数：52名

20～80代の男性37名、  
女性15名から意見聴取



町民ヒアリングの様子

## ■ 主なヒアリング項目

- ・現在の街なかの様子、印象
- ・空き家、空き店舗に対する意見や活用方法
- ・街なかの活性化事業に対する意見、検討の中で考慮して欲しいこと
- ・普段の生活の中で何があったらよいか  
(街なかに必要なもの)ほか

## ■ 現在の街なかの様子、印象

- ・生活に必要なものが徒歩圏内で揃うため、**生活環境は良い**という意見が多く出ました。
- ・空き家や空き店舗、空き地が増えたこともあり、住民の中でも**雰囲気**に対する考え方や意見は分かれました。



- **いまの雰囲気は好き。**中央通りを歩いていると会話ができる雰囲気だったり、コミュニティが好き。
- コンパクトにまとまっていて、特に**高齢者**にとって**生活しやすい**。
- レトロな雰囲気があった建物が減り、**いまだにレトロな雰囲気が維持できているか**疑問。
- レトロと寂れた雰囲気は紙一重。